

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和7年度第1回相模原市医療的ケア児等支援地域協議会		
事務局 (担当課)		高齢・障害者福祉課 電話042-707-7055 (直通)		
開催日時		令和7年10月29日(水) 午後7時00分～8時30分		
開催場所		相模原市民会館 2階 第2大会議室 /オンライン		
出席者	委員	15人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	11人(高齢・障害者福祉課長、こども施設課総括副主幹、保育課長、児童発達支援センター長、療育相談室長、支援教育課長、高齢・障害者福祉課総括副主幹、同副主幹、同主査2名、同主任)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	3人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
議 題		1 開会 2 議事 (1) 医療的ケア児等コーディネーターの支援状況と今後の体制について (2) 医療的ケア児支援のポータルサイト作成について 3 その他 (1) 北里大学病院小児在宅支援病棟あすばらについて (2) 情報交換 4 閉会		

議 事 の 要 旨

主な内容は次のとおり。

開会前に事務局より、資料の確認と欠席委員の案内を行った。

1 開会

河合会長より開会の挨拶があった。

2 議事

- (1) 医療的ケア児等コーディネーターの支援状況と今後の体制について
事務局及び和田委員から資料1について説明した。

意見等は次のとおり。

(新田委員)

医療職アドバイザーはどのような方に担ってもらう予定か。

(高齢・障害者福祉課)

医療職ならどなたでも良いわけではなく医療的ケアの知見について考慮しており、重症心身障害児者の入所施設の医療職や北里大学病院の方などを想定しており、現在も相談を進めているところである。現時点では、まだ見通しをお話しできる段階ではないが、引き続き調整を進めていきたい。

(都築委員)

今年度の新規ケースだけでも9人いるそうだが、コーディネーターは医療職アドバイザーにどのような相談をするのか。他の分野ならば難しいだろうが、自分の専門分野ならば相談にのれるかもしれない。

(和田委員)

例えば、ケース検討会の前後に対象児の状態像について助言を受けられるとよい。特に少ない症例の場合、在宅生活に移る際の配慮点や家族としての不安感等について臨床を担っている医療職から助言をいただくことは、その後の連携の点でも大切と思う。コーディネーターが受ける相談の例として多いものは、退院後にどのような施設が利用できるかといったことである。

(須合委員)

福祉系の相談員として、実際に医療職の方から助言を受けることがあって良かったと思った。やはり医療職の方でないと分からないことがあると思う。

(田極委員)

病名を伺ってもその症状等がなかなか分からないところもある。自分で調べてもみている。主治医等との連絡については、保護者との関係性を築いてから了解をいただけるといったことでもあり、その手前の段階で一般的な意

見を聞いておけるとコーディネーターとしても安心して進めていけると思う。また、実際の相談の例としては、今後就学の段階を迎えるに際して計画相談事業所から一緒に関わってもらえないかといったものがあった。

（都築委員）

コーディネーターの話を聞くと、助言の範囲がやはり幅広いと思った。従って、医療職アドバイザーは複数人で担う方がよいのではないだろうか。

（松岡委員）

保育園では病児保育等もあり、協力医がいる。医療職アドバイザーは常駐するわけではないだろうから、今の時代に合わせてオンラインの活用も考えてみて複数の方に関わっていただくようなイメージかと思う。

（高齢・障害者福祉課）

ご意見をいただいたように、協力いただく先を複数にするかどうかや、オンラインの活用等相談方法も含めて、引き続き医療職アドバイザーの依頼先を検討したい。

（新田委員）

コーディネーターは精力的に動いており感謝しているが、保護者が相談したいときに電話が繋がる体制が必要だと思う。コーディネーターが配置されているキーステーションの電話は混雑していることもあるようだが、やはり連絡が繋がる体制は大切だと思う。

（高齢・障害者福祉課）

今後キーステーションでコーディネーターの配置が拡充することで、キーステーションの誰でも対応ができるようにしていきたい。

（２）医療的ケア児支援のポータルサイト作成について 事務局から資料２について説明した。

意見等は次のとおり。

（富川副会長）

このポータルサイトはどのように検索すると見つけられるようになるか。例えば、医療的ケアではなく、医ケア等のことばでも検索されるのか。

（高齢・障害者福祉課）

実際には、インターネットの検索エンジンによると思うが、検索しやすくなるような工夫についても検討して作成したい。

（荒川委員）

小児訪問リハビリテーション事業所一覧の表記を確認願いたい。

また、保護者が一番困るような話、ニーズが多い話であるショートステイに

についても掲載するとよいと思う。

（高齢・障害者福祉課）

ご意見を参考にさせていただきたい。

今回の案は、市のホームページの基本的な掲載内容を踏まえて、既に市のホームページ内にあるものや公的機関のホームページから選んだものとした。

他に載せるとよいと思われることがあればご意見をいただきたい。

（野々田委員）

細かい話になるが、小児慢性特定疾病医療について触れているが、他にも身体障害者手帳や産科医療補償制度についても含まれているのか。

（高齢・障害者福祉課）

障害者手帳については、障がい者福祉の部分に総括的に載せる予定である。

また、項目が増えすぎるとポータルサイトとしての見やすさにも関係するため、どこまで細かく載せるかバランスにも考慮して作成したい。

（新田委員）

川崎市のほうで作成された「かわさき医療的ケア児者Support Book」について紹介したい。過去にも何冊か作成されて毎回バージョンアップされている。知り合いの方から今回発行したということで送っていただいた。

子育て、社会資源、災害対策等が載っているので参考にさせていただきたい。また、保護者の方がちょっと見てみようと思うような言葉の使い方や楽しそうな記事も載せている。保護者にとって、希望や楽しそうといった感じの要素があってもよいのではないかと思う。

（高齢・障害者福祉課）

いただいたご意見や視点も参考にさせていただき作成したい。

（荒川委員）

レスパイトのことでいえば、きょうだい児の行事参加等の際にも訪問看護も適切に運用させていただいている。事業所の情報や通常の支援に加えて計3時間の利用ができる市の重症心身障害児(者)訪問看護支援事業についても載せてはどうか。

（高齢・障害者福祉課）

医療的ケア児者を対象とする訪問看護事業所の情報に関して、ポータルサイトでの掲載の仕方についても検討したい。

ここでは載せられなかったようなテーマやご家族が本当に求めていることがこのポータルサイトを通じて見つけられるようにしていきたい。

3 その他

（1）北里大学病院小児在宅支援病棟あすばらについて

野々田委員から提供資料について説明された。

意見等は次のとおり。

（野々田委員）

特に今月は人工呼吸器の方の入院がかなり多かった。ご家族が感染症で看られなくなって依頼をいただいたが、この場合個室で管理しなければならない状況で、小児病棟にも協力してもらって対応したといったこともあった。

15床備えているが、それでも受入れが厳しいときもある。本当に15床埋まったことは今のところなかった。

（松岡委員）

素晴らしい事業だなと思い、レスパイトで希望される方は多くいるだろうなと思った。ご家族ではなく児童本人の体調が悪いときはどの程度看られるものか。

（野々田委員）

普段行っている呼吸管理以上を必要とする程度ならば難しい。こうした場合には治療病棟の対応となる。ご家族の感染症の場合の利用はケースバイケースで対応している。児童本人も発症するだろうなといった場合には難しい例があるかもしれない。

あすばらには個室もあるが観察面では限定されるところもあるので、それでも大丈夫といった患者を受け入れている。

（玉手委員）

1回の利用で実際何日ぐらいうちの利用が多いか。宮崎の方では、医療的ケアの特に重い方に限られていて、例えば、り患されたご家族の代わりになるもので訪問事業があった。

（野々田委員）

実数として数えてはいないが、7泊8日の利用の方が7割か8割、逆に日数が続くと心配という方の場合は短いと2泊3日という場合もある。

（新田委員）

あすばらの事業はとても助かっているが、18歳で卒業となることが課題であり、保護者からも不安の声が出ている。あすばらだけを使っている方と複数を使っている方はどの程度いるのか。

（野々田委員）

大体どの方についても他に利用されているところを把握している。他市からの利用では2、3カ所を利用しているという方はいらっしゃるが、北里しか使ったことがないという方も多い。できれば複数のところに登録しておいて、希望の日の予約が取れなかったら他のところも利用できるようなご案内

をしている。

（細田委員）

人工呼吸器等医療的ケアがあってあすばらを使ってきた方が17歳ぐらいで相談することが増えている。また、市外からも人工呼吸器を装着している方からの問い合わせが増えている。夜間は看護師2名と生活支援員2名体制であり、この体制の中で、他にも頻繁な吸引やてんかん発作などの対応もあることから、人工呼吸器の方の新たな受け入れを行うためには看護師の確保が必要である。

（野々田委員）

毎年のように、細田先生の相模原療育園やワゲン療育病院長竹のほうで呼吸器の方も含めて何人も引き受けていただいている状況である。

（高齢・障害者福祉課）

あすばらの運営状況については、毎年補助事業の実績として報告いただいている。昨年度は、延べ利用数は4,328人、そのうち本市の延べ利用数は1,973人である。

（富川副会長）

将来的には他の機関にも広げる等も含めて、こうした支援を増やしていけるように市としても取り組んでいただきたい。

（2）その他

（富川副会長）

以前にも協議会の場で支援学校の先生から話があったが、特に山間部の通学の足や進学のこと、ご家族が仕事に復帰するにあたって遠い保育園だと利用が難しいといったこともある。

また、委員にハローワークの方も参加されているが、養育者の仕事の問題についても、医療的ケア児を取り巻く環境の整備ということかと思う。

（三森委員）

先日の学校の保護者懇談会にて、昨年度から始まった市の人工呼吸器使用者の非常用電源給付についても少し話題になった。まだ制度が始まったばかりだが、吸引や在宅酸素の方等にも対象を広げてもらえるとありがたいとの声がたくさんあった。災害時を考えると、少しでも安心できる材料になるといいかと思った。

（笹嶺委員）

前任校では、看護師が付き添って安全に守られて1年間かけ少しずつ酸素ボンベを外していき、中学校へ進学することができた例を見てきた。本日の話では、より重度の方の地域支援の話で、何か学校でできる事を考えていか

ないとと改めて思った。

人工呼吸器を付けた児が支援学校から年３回程交流に来たことがあったが、きょうだい児にとってもこうした機会を提供していくことに取り組んでいきたい。

また、学校は必ず避難所運営協議会に参加しているので、医療的ケア児を受け入れる環境ができているかといった視点ももって、今後も関わっていききたい。

（新田委員）

社会資源の地域格差という点について、重心ネットワーク会議にも参加されている津久井支援学校からの話もあった。自分たちでは送迎の対応が難しかったが、社会資源が少ない緑区にも目を向けていただきたい。

4 閉会

河合会長から閉会の挨拶があった。

以 上

令和7年度第1回 相模原市医療的ケア児等支援地域協議会

(敬称略)

	所属	氏名	備考
1	鶴見大学短期大学部	河合 高鋭	会長 出席
2	一般社団法人相模原市医師会	富川 盛光	副会長 出席
3	一般社団法人相模原市医師会	都築 慶光	出席
4	学校法人北里研究所 北里大学病院	野々田 豊	出席
5	一般社団法人相模原市医師会	荒川 雅子	出席
6	社会福祉法人慈恵療育会	細田 のぞみ	出席
7	特定非営利活動法人はる	新田 文恵	出席
8	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 基幹相談支援センター	玉手 邦明	出席
9	相模原市私立保育園・認定こども園園長会 社会福祉法人さがみ愛育会	松岡 裕	出席
10	相模原市幼稚園・認定こども園協会 学校法人山口学園	山口 博美	出席
11	相模原市立小・中学校長会代表者会 相模原市立谷口小学校	笹嶺 由香	出席
12	神奈川県立相模原中央支援学校	三森 吉徳	出席
13	相模原公共職業安定所	佐々木 学	欠席
14	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 緑障害者相談支援キーステーション	田極 法恵	出席
15	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 中央障害者相談支援キーステーション	和田 幸恵	出席
16	社会福祉法人相模原市社会福祉事業団 南障害者相談支援キーステーション	須合 優佳	出席